

日本3PL協会 3PL管理士講座8期生

活躍目指す女性たち

日本3PL協会(和佐見勝会長、東京都千代田区)が運営する「日本3PL管理士講座」の8期生は29社・40人。通常勤務をこなしながら半年間で24日間、講義や合宿に出席し、論文の作成や試験勉強をするのは大変なことだが、「物流のプロフェッショナルになりたい」と、3PL管理士を目指して頑張る女性受講生4人に話を聞いた。

同講座は、3PL目は深川ゆりえさん(業界で即戦力となる「共同物流サービス」「マルチスベシヤリ」本社営業企画室)。「マルチスベシヤリ」入社4年目だが前職としての物流の仕事に携わっており「通算11年」という。「顧客の希望に寄り添った実践的なスキルと知識の習得する。第8期は昨年9月から今年3月まで、合計120時間以上のカリキュラムが組まれている。

試験の答えをもらっているような感覚。荷主の要望にプラスアルファの提案ができるようになる」と語る。

2人目は朱配さん(大和物流・埼玉支店久喜物流センター業務課)。大学院で中国の物流企業について研究していたが、日本の3PLに興味と魅力を感じ入社。「担当する荷主の在庫管理や出入庫指示、車両手配も行っている。目指すのは、物流の運営だけではなく、物流課題を分析し改善の提案もできるように。カスハラ対策にも対応したい」。

3人目は岡千絵美さん(ハイペリオ



助け合い、切磋琢磨する第8期生女性受講者の4人(右上から時計回りに山田、岡、朱、深川の各氏) フトのオペ

ン・コンサルティング)社が抱える課題を裏方として、システムだけに頼らず、解決したい。人数は少なく改善し支援していきたくても女子パワーで明るい」と頼もしい。

レーターとして活躍。「経験者なので各プレイヤーの気持ちや長所が分かる。今度のは頭脳の部分に挑戦したい」とオールマイティーな「物流人」として、「顧客の喜ばれる物流とは何か?」を追求。「受講したことで、新たな視点が見えてきた」と話す。

「大変」と言いながらも「講義で会う理士の誕生が期待される。」(小澤 裕)